

図 土地利用図

ては、中高層住宅がやや多く分布している。

業務施設は大小様々な規模のものが東部や西部に分布し、北部の一部には工業施設がみられる。

学校などの公共施設は中部から東部、南東部などに、公園は西部などに小規模なものが点在している。



資料) 国土地理院

(3) 道路網

本地域の幹線道路は、中南部を東西に、西部を南北に通っている。本地域内には、幹線道路は中部～北東部にはみられない。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、西部や南東部など一部にみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくいかできない道路や袋小路となった行止りの道路で、中部以北などの広い区域にみられる。

図 道路網図



作図) (株) ランドシステム研究所、岡本

2. 災害予測

(1) 水害予測

① 淀川外水氾濫

淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域は、浸水深の最大は3m～4mで、この区域は、北東部などにみられ、中部、東部の一部は2m～3mの浸水深となっている。

収容避難所である西淡路小学校は、この図によれば、1階まで浸水する予測となっている。

② 神崎川・安威川 外水氾濫

神崎川・安威川の外水氾濫予測図では、本地域は、北部で1～2mの浸水が発生し、中部で0.5m～1mの予測となっている。

図 外水氾濫予測図(淀川)



作図) (株) ランドシステム研究所、岡本

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、0.1m～0.5mの浸水深が中部から北部にかけての一部にみられる。

(2)地震予測

①震度予測

南海トラフが活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域は全域が震度6弱の激しい揺れが発生するものと予測されている。



②液状化

地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

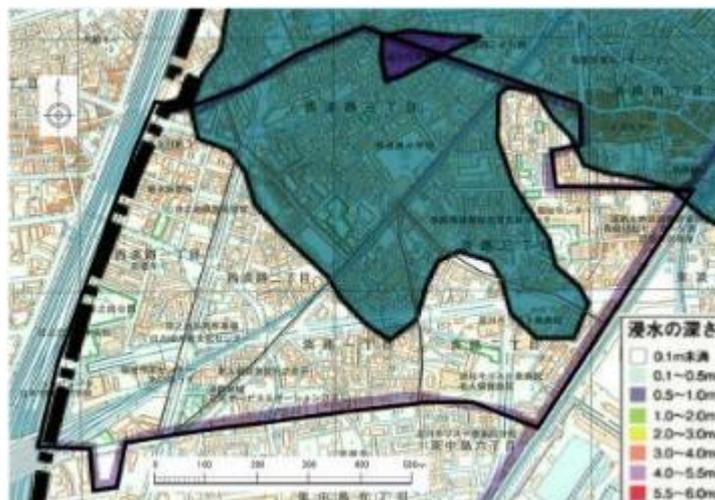
本地域の液状化の危険性は、東部、西部で高く、きわめて発生しやすい地区がみられ、中部の一部は発生しやすいと予測されている。

(3)東海・東南海・南海地震の予測

平成25年8月に、大阪府から発表された予測によれば、これらの地震が連動して発生すると、大阪市付近は震度6強～6弱の揺れが発生し、大阪湾付近には110分後に、5mの津波が到達すると予測されている。

この中で、大阪市域の津波浸水想定区域が右図に示す内容で公表された。

図 内水氾濫予想区図



作図) (株) ランドシステム研究所、岡本

図 震度予測図



資料) 大阪府

図 液状化予測図



資料) 大阪府